



4月

「DEUTSCHE HÖFLICHKEITSSPRACHE」 アントニア・シュルト

1. ドイツ語シリーズの続きとして今回はドイツ語の敬語をテーマにしたいと思います。

尊敬語、謙譲語、丁寧語という三つに分かれている日本語の敬語ほど恐ろしいものではないかもしれませんが、一応、ドイツ語にも相手に敬意をはらう時に使用される敬語があります。

英語の場合、どんな相手にも「You」を使うのに対して、ドイツ語では「あなたのこと」を表す二人称の表現は「Sie」（ジー）と「du」（ドゥー）の2つがあります。ドイツ語の文法は、主語を省略することができないため、人称代名詞は会話では欠かすことができません。

では、目の前にいる人と会話をするとき、ドイツ人はduとSieをどのように使い分けているのでしょうか。



2.

- 1.お店のスタッフやレストランのスタッフと客
- 2.道を聞かれた人と聞く人
- 3.学校の先生と生徒（16歳以上）
- 4.医者と患者
- 5.会社の部下と上司または同僚
- 6.初対面同士

家族や親しい友人を除き、大人に対しては全て「Sie」の表現を使うマナーが、最近とてもあいまいになってきています。特にスタートアップや近代的なイメージを取得しようとする会社では昔なら考えられないですが、上司へ「Du」を使う時代になっています。

3. そして、日本語の敬語ともう一つ大きな違いは、日本では暗黙の了解で誰が誰に丁寧語を使うかがきっちりと決められているのに対し、ドイツではどちらで呼び合うかという言葉での合意が二人の間で行われることです。その時は「Wollen wir „du“ sagen」「今からduで呼び合いませんか?」と質問します。初めて会う人で、自己紹介をするとき「Nenn mich Peter!」（ピーターと呼んでね。）と言うと、「Du」を使ってもいいという許可が含まれています。ちなみに、ドイツで下の名前は「Du」と結びついていますので、「さん」を付けても病院などで「アントニアさん」と呼び出されると少し違和感をしてしまいます。

ところで、ドイツ語にも相手の名前を呼ぶときに、英語の「ミスター」や「ミス」のような丁寧な表現があります。男性なら「Herr / ヘア」、女性は「Frau / フ라우」です。この敬称に苗字をつけて呼ぶのが一般的なルールです。

ドイツ語の敬語を考えながら、言語を上手く使えるにはその国の文化を理解する必要があると改めて気づきました。